

北海道大学サステナビリティ宣言

北海道大学は創基150年を迎える2026年に向けて、中長期戦略「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」を2014年に策定し、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を目指して歩みを進めている。持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)は、その翌年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に示された、2016年から2030年までの17の国際目標である。これは世界の叡智が熟考を重ねた人類の持続可能な成長のために解決すべき課題であり、「誰一人取り残されない」「平和・人権・ウェルビーイング(Well-being)」「経済・社会・環境の調和」などを基本理念としている。

本学はこうした中で、2020年12月に総長方針『「比類なき大学」を目指して』を公表した。2021年3月には、2030アジェンダに向けた「Joint Statement of Global University Leaders」として共同声明を出している。2021年8月には全学組織のサステナビリティ推進機構を新設し、サステナビリティの推進体制を整えた。さらに第4期中期目標期間(2022～27年度)の大学独自の中期目標として「SDGs達成への貢献」を掲げた。2021年12月には「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」を行い、多様性を尊重し共生を実践する決意を表明した。同月に策定した「2040年に向けた北海道大学の国際戦略」でも、「サステナビリティの追求」を戦略目標の一つとしている。2023年7月に策定した「HU VISION 2030」でも持続可能なWell-being社会の実現を目指すこととしている。

本学は1876年に、北海道開発のための寒冷地における農業技術の開発と人材育成を趣旨として設置された札幌農学校を起源とするわが国最初の高等教育機関のひとつである。初代教頭ウィリアム S. クラーク博士は、“lofty ambition”(高邁なる大志)に代表されるクラーク精神や、専門教育に偏らない人格教育を含むカリキュラムを導入し、本学の礎を据えた。札幌農学校一期生の佐藤昌介博士は、1930年まで約40年間に渡り校長、学長、総長を務め、米国各州に設置された農工科大学の経営手法に倣った運営により、教育・研究の必要上及び基本財産として広大な国有地を附属農場や演習林として整備し、本学が理系4学部を擁する帝国大学になる礎を築いた。現在本学は、国立大学法人の中ではそれぞれ最多とな

る12学部と21の大学院を擁する基幹総合研究大学となっているが、本学が広大で緑豊かな札幌キャンパスや世界最大級の規模を誇る研究林を保有するのはこのためである。他方、私たちは、現在のキャンパスやフィールドが先住民族アイヌの生活の場に位置している歴史を認識し、環境における持続可能性だけでなく、文化的多様性の回復と持続可能性についても追求していく必要がある。

本学はこうした発展の経緯や北海道の自然環境を基盤として、とりわけ農学・林学・水産学などのフィールドサイエンスや環境科学などに強みを持つに至り、食料生産、生物多様性、環境保全、気候変動といったSDGsを含むサステナビリティ(以下「サステナビリティ等」という。)の中核をなす分野で世界を牽引する優れた教育・研究を活発に行っている。こうした教育・研究・社会連携の営みが、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」という本学の教育研究に関わる4つの基本理念に結実している。

以上の歴史的認識に立脚し、学生、教職員、経営層も含めた全ての構成員に対してサステナビリティ等に関する教育プログラム、学内研修及び自己研鑽支援制度をはじめとした個々の能力向上のためのあらゆる機会を創出することで、各自の活動がサステナビリティに繋がるという認識を促し、各自が矜持と尊厳をもって活動することを通じて、自らの可能性へ挑戦するなど個々の能力を最大限に発揮することができる環境を整える。このことにより、サステナビリティ等を共通言語とした学内エンゲージメント(一体感)の醸成を図り、大学としての総合力を向上させ、世界の課題解決に一層貢献できる北海道大学を目指す。あわせて、サステナビリティ等の実現に当たって構成員が重んじるべき誠実さと公平性などの倫理観を育てていく。また、このことを通じて、本学がコミュニティの中核となり、学外エンゲージメント(共感)を醸成することによってその社会的インパクトを一層高める大学になることを決意し、ここに「北海道大学サステナビリティ宣言」を表明する。

2024年8月1日
国立大学法人北海道大学総長

寶金清博

北海道大学がサステナビリティ宣言の実現を通じて目指す姿

北海道大学サステナビリティ宣言では、世界の課題解決に貢献する北海道大学として、全ての構成員に対してサステナビリティ等に関する教育プログラム、学内研修及び自己研鑽支援制度をはじめとした個々の能力向上のためのあらゆる機会を創出することで、各自の活動がサステナビリティ等に繋がるという認識を促し、各自が矜持と尊厳をもって活動することを通じて、自らの可能性へ挑戦するなど個々の能力を最大限に発揮することができる環境を整える。このことにより、サステナビリティ等を共通言語とした学内エンゲージメント(一体感)の醸成を図り、大学と

しての総合力を向上させ、あわせて、サステナビリティ等の実現を通じて各自が倫理観を養い、世界の課題解決に一層貢献できる北海道大学を目指す。こうした活動の変化は、対外的にも本学の社会における存在意義を高め、学外エンゲージメント(共感)が醸成され、その結果として本学は社会的インパクトを一層高め、「持続可能なWell-being社会」を実現する社会変革を先導していく。

また、本宣言の実現を通じて、本学は以下のような姿を目指す。

- ウィリアム S. クラーク博士の“lofty ambition”(高邁なる大志)の精神を背景に持つ大学として、活気に満ち、健康的で、信頼され、さまざまなステークホルダーと深く関わり互いに尊重し合い、すべての構成員が一体感をもって課題に立ち向かい、学際性、リーダーシップを育み強化し、多様で包括的なサステナビリティのキャンパス文化を創造する大学
- 本学が活動する多くの土地が、元々先住民族(アイヌ)の方々が日々の暮らしに利用していた場所であり、先住民族の歴史を背景に持つ環境の中で教育・研究活動を行っているという共通認識を持ち、文化的多様性の回復を追求し続ける大学
- 基本理念の中に「全人教育」と「国際性の涵養」を標榜する大学として、サステナビリティに関する世界的ネットワークをリードし、サステナビリティに関する学問を発展させ、地域でサステナビリティの実践を成功させ、サステナビリティの知識とスキルを身につけた学生を育成し、持続可能な社会の実現を推進する次世代人材を社会に輩出し続ける大学
- 基本理念の中に「実学の重視」を標榜する大学として、国の掲げる温室効果ガス削減目標を達成するとともに、必要な財源確保に努めつつ、水消費の削減、廃棄物や食品ロスの削減、プラスチック使用量の削減、環境負荷の少ない通勤・通学方法の選択、構内交通体系の最適化など、キャンパスライフの環境負荷を最小化するための取組や構成員の行動変容を通じ、気候変動対応や生物多様性保全等の持続可能な社会の実現に向けて、公正かつ公平な移行を加速化する大学